

平成 30 年度  
まいづる中学生  
まちづくり議会  
報告書



舞鶴市教育委員会





**平成30年8月25日  
まいづる中学生まちづくり議会  
舞鶴市議会議場**



# 目次

■ 日程表	1
提案者及び提案要旨	2
■ 座席図	3
■ 開会にあたって	
➤ 舞鶴市長 あいさつ	4
➤ 舞鶴市議会議長 あいさつ	5
■ 提案・答弁（提案順に掲載）	
➤ 白糸中学校	6
➤ 加佐中学校	10
➤ 青葉中学校	14
➤ 和田中学校	18
➤ 城北中学校	22
➤ 若浦中学校	26
➤ 城南中学校	30
■ 閉会にあたって	
➤ 舞鶴市教育委員会教育長 あいさつ	34
■ 表彰式	
➤ ふるさと舞鶴優秀提案賞・奨励賞	36
■ 感想文（題名：まいづる中学生まちづくり議会に参加して）	
➤ 青葉中学校	37
➤ 白糸中学校	38
➤ 和田中学校	40
➤ 城南中学校	41
➤ 城北中学校	43
➤ 若浦中学校	44
➤ 加佐中学校	46
■ 取組の記録（事前学習会・本会議）	
➤ 開催経過	48
➤ 写真	49

# まいづる中学生まちづくり議会 日程表

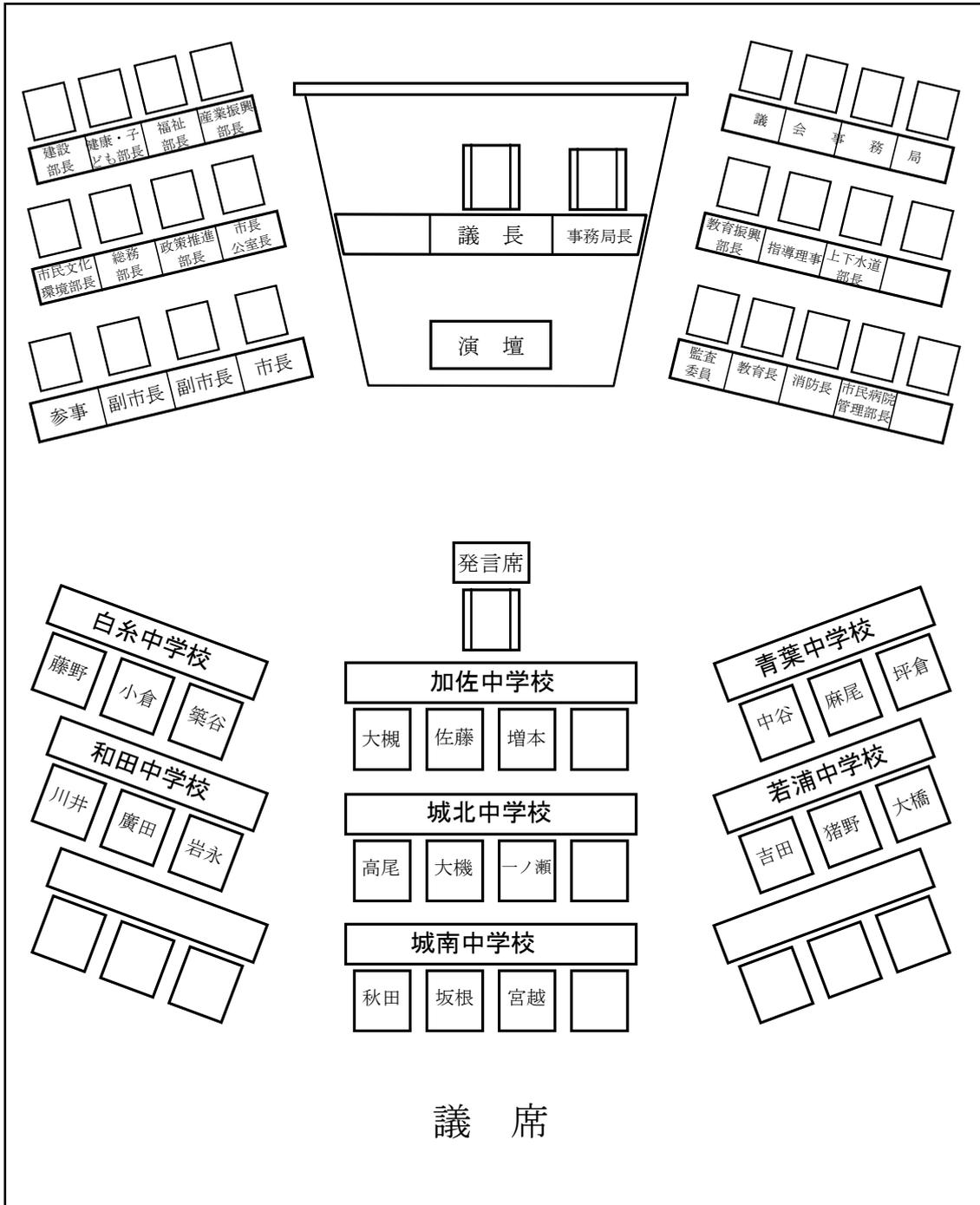
日時 平成 30 年 8 月 25 日（土）  
午前 10 時～  
場所 舞鶴市議会議場

- 1 開会宣言（上野修身議長）
- 2 開会あいさつ（多々見良三市長）
- 3 質疑応答（各中学生議員）
- 4 閉会あいさつ（奥水孝志教育長）
- 5 閉会宣言（議長）
- 6 表彰（市長）
- 7 記念撮影

## 提案者及び提案要旨

中学校	議員氏名	提案テーマ	内 容
白糸	藤野 正太郎	子育てしやすい環境づくり	保育人材を確保するための取組について
	小倉 陸	子育てしやすい地域づくり	地域と親子の絆を深める子育てについて
	築谷 みゆ	定住人口の減少抑制	地元就職する人を増やすための取組について
加佐	大槻 隆之介	地元就職の誘導	地元企業でのインターンシップの実施について
	佐藤 遥	防災力の向上	地域が主体となった防災の取組について
	増本 乃音	加佐地域の活性化	廃校を活用した宿泊施設について
青葉	坪倉 咲希	消防団員の確保	女性消防団員の加入を促す取組について
	麻尾 遙弥	防災対策	災害時の避難情報の伝達について
	中谷 泰士	健康づくりの推進	地域社会で継続的に取り組む健康づくりについて
和田	川井 玄仁	観光振興	舞鶴ならではの体験型ツアーの開催について
	廣田 一斗	学力の向上	生徒全員がしっかりと学べる学校づくりについて
	岩永 一哲	スポーツを通したまちづくり	誰もがスポーツを楽しめる環境づくりについて
城北	高尾 悠冬	子育てしやすい環境づくり	地域の公園活用について
	大機 快聖	定住人口の減少抑制	舞鶴で働いて暮らすための環境づくりについて
	一ノ瀬 開斗	定住人口の減少抑制	ふるさと舞鶴を愛する人を増やすことについて
若浦	大橋 史佳	交流人口の増大	舞鶴に繰り返し訪れてもらうための観光の取組について
	猪野 北斗	大浦地域の活性化	農山漁村地域における廃校跡地等の活用について
	吉田 佳子	学び合いのある学校	相手を理解し一人一人を大切にすることを育むことについて
城南	秋田 真希	生活道路の整備	誰もが安心して通行できる道路整備について
	坂根 翔太	自然環境の保全	自然体験ができる清掃活動の取組について
	宮越 楓斗	健康寿命の延伸	地域活動により元気な高齢者を増やす取組について

# 座席図



皆さん、おはようございます。舞鶴市長の多々見良三です。

本日は、市立中学校7校から21人の中学生議員の皆さんにご参加いただき、「まいつる中学生まちづくり議会」を開催することとなりました。

この「まちづくり議会」は、市民から選挙で選ばれた市議会議員に代わり、これから先の次代を担う中学生の皆さんに議員となっていていただき、市の施策や取組に関する学習を通して、生まれ育った「ふるさと舞鶴」について理解を深め、そして、当事者意識を持って、この舞鶴をより良いものにするにはどうしたらよいか提案していただくものです。

昨年度に初めて開催し、成功を収めることができました。第1回が終わってから、本日第2回となる「まちづくり議会」の開催を大変楽しみにしておりました。中学生の皆さんから、中学生らしい視点からの考えや提案を直接聞くことができる、大変貴重な機会であると思っています。

慣れない場所で、皆さんは少し緊張するかもしれませんが、自分の提案を堂々と発表してくれることを期待しておりますし、皆さんからの提案に対して、私自身、真剣に真摯にお答えをし、舞鶴市民の幸せのためにやるべきものだと判断した施策については実施していこうと考えているところです。

陸上競技のリレーに例えるなら、皆さんがこれから先の舞鶴市のまちづくりを担うバトンをもらう側になります。バトンを渡す人、バトンをもらう人がいるから歴史には終わりがなく、誰もが必ず「もらう人」にも「渡す人」にもならなければいけません。中学生の皆さんは、これからバトンをもらい、舞鶴の歴史を作っていく大切な人達です。自分が暮らしているまちをより良くするのは、そのまちに暮らす人以外にはありません。自分の手でこのまちを良くしたい、そんな思いから本日の提案を考えてくれた経験は、皆さんの将来に必ず役立つものであると信じております。必ずまちは変えられます。こういうまちにしてほしいという想いを、ぜひ伝えてもらいたいと思います。

本日の会場である、この市議会議場は、選挙で選ばれた市議会議員の皆さんが、舞鶴市として考えていることや取組もうとしていること、税金の使い道などを話し合っただけで決定したり、舞鶴市の取組が正しく行われているかどうかをチェックしたりする場です。市議会議員の皆さんが、市民の代表として意見や考えを述べたりする一番大切な場所がこの議場です。ぜひ、中学生の皆さんにも、このような経験を通して、ふるさと舞鶴のために力を発揮できる人材になってくれることを期待しております。

後になりましたが、この中学生まちづくり議会を開催するにあたり、上野修身市議会議長をはじめ、保護者の皆様、関係者の皆様のご協力に対しお礼を申し上げますとともに、本日参加いただきます中学生議員の皆様にとって貴重な経験になりますことを祈念し、開会にあたり私からのあいさつとさせていただきます。

皆さん、おはようございます。

私は、舞鶴市議会議長の上野修身でございます。

「まいづる中学生まちづくり議会」の開催に当たりまして、高いところから座ったままで恐縮ではございますが、議会を代表して、一言、ごあいさつを申し上げます。

市内7中学校を代表する中学生議員の皆さん、また、傍聴にいらしていただいております、保護者の皆様方、関係者の皆さん、今日は、舞鶴市議会によるこそ、お越しくございました。心より歓迎申し上げます。

さて、中学生議員の皆さん、今日は、本来の議会を体験いただくために、私が、通常の議会での議事の進行と同じように、議事を進めてまいります。

今、皆さんがいらっしゃいますこの議場は、舞鶴市民の皆さんに選ばれた舞鶴市議会議員が集まり、市民の皆さんの暮らしに関する大切なことなどについて真剣に審議し、決定する場所でございます。

このため、議会といたしましても、この議場において、本日、「中学生まちづくり議会」が開催され、皆さんから、より良いまちづくりを進めるための真摯で率直な提案をいただくことを誠に光栄と感じておりますとともに、今後、より一層、市政や議会に対する関心を高めていただけるようになることを期待しているところでございます。

本日の議会を通じて、将来、ふるさと舞鶴のために積極的にかかわり、頑張りたいと思う人が数多く、あらわれますことをお祈りいたしまして、簡単ではありますが、議会からのあいさつとさせていただきます。

# 提案・答弁

(議会当日の提案順に掲載)

## 提 案 ・ 白糸中学校

## ● 「保育人材を確保するための取組について」 藤野 正太郎

現在、舞鶴市は待機児童がゼロに近く、またその保育内容について全国から多くの視察を受け入れている成果があります。しかし、深刻な課題として、今後の保育人材の不足が心配されます。そこで、その課題を改善するために二つの提案をします。

その一つ目は、保育士を希望している人たちが、国家資格を取れるように、市が中心となって学習会を開くことです。現役の保育士の方に先生役となっていただき、学習会をします。メリットとして、保育士の希望者の人数を把握でき、保育人材が確保できることです。

二つ目は、退職された方達に自分の子育ての経験を生かして、保育士のサポートをしてもらうことです。

この二つの提案には課題が出てくることが考えられます。そこで、来年4月にスタートする乳幼児教育センターが中心となって取り組んでいってはどうでしょうか。



## ● 「地域と親子の絆を深める子育てについて」 小倉 陸

みなさんは、親がスマホに夢中になり、子どもへの注意が散漫になっている光景を見かけることはありませんか。僕はスマホを使うことは悪いことではないけれど、夢中になり過ぎて子どもへの注意が散漫になったり、一緒に遊ばなかったりして親子の関わりが減っていることが問題だと思います。

親子の関わりを増やすため、僕は次のことを提案します。それは、地域の子育てを終えた方々の力を借りて地域の中で親子が楽しく触れ合う機会を増やすということです。例えば、子育て交流施設のように誰でも親子で楽しく遊べる場が地域にあると、気軽に遊びに来ることができると思います。どの地域にも公民館があると思うので、そこで月に数回、その地域の子育てを終えた方々が中心となり、親子遊びの会のようなものをしていけば、親子の絆も地域の絆も深まると思います。僕たち中学生も地域の一員として地域行事に参加し、小さな子どもだけでなく地域の方々とも関わられるようにしていきたいです。



● 「地元就職する人を増やすための取組について」 築谷 みゆ

近頃は、地元就職をする人が減ってきています。地元の企業についてよく知らない人が多いというのが現状です。若いうちから、地元にある企業・職種を知り、進学した後、戻って来て舞鶴で働くべきだと思います。そのためには企業のPRが必要です。



私は8月5日に共済病院で行われた職業体験イベントに参加し、医師や看護師、医療に関わる体験をしました。私はそこで、臨床工学技士になりたいという夢を見つけました。将来は舞鶴の病院で働きたいです。私のような考えを持った人は参加者の中に多くいたと思います。このように医療以外の企業でも中・高生を対象とするPRをし、関心を持ってもらうことをしたいと思います。公開講座を行ったり、体験イベントをしたりするなど、企業をより深く知ってもらうことが重要です。舞鶴ならではの造船所や漁業関係等の企業でイベントをすると、市外からの注目が集まると思います。

答 弁 ・ 多々見良三市長

まず、藤野議員から提案がありました保育人材を確保するための取組についてですが、本市では、公立・私立合わせて15の認可保育所において、現在、1,560名の子どもをお預かりしており、待機児童が発生していない状態を維持しています。

この「待機児童なし」を継続させていくためには、保育士を安定して確保することが必要となりますが、保育の専門性が、より高く求められるようになってきた中で、賃金が他の産業の平均額より低いことや、希望する勤務の時間帯が合わないなどの理由により、その数は必ずしも充足していない状況にあります。

そこで、まず一つ目のご提案である保育士資格を取りやすくするための学習会の開催についてですが、現役保育士が先生となって学習会を開催するには、大変限られた保育士数の中で、保育士資格の取得を目的として、定期的に講義をすることは、内容的にも時間的にも厳しいところです。

しかしながら、資格取得のための受験に参考としていただけるよう、保育士を志望する方も対象として、今、保育で求められていることや子どもとの関わりの中で大切にしたいことなどをテーマとした出前講座の開催や、保育現場における保育体験の機会を設けていくことにより、その夢の実現に向けて、積極的にお手伝いしていきたいと考えております。

次に、二つ目のご提案である退職者を活用した保育士のサポートについてですが、保育士資格を持ちながら保育士として仕事をされていない方もたくさんいらっしゃいます。保育士の確保にあたっては、新卒者だけでなく、こうした方を対象とした取組も有効であると考えております。

このため、一定の年齢で退職された方はもとより、特に出産や結婚などを機に退職された方も含めて、様々な機会や媒体を通じて保育士募集を周知するとともに、保育士としての復職に不安を持たれている方に対しましては、この秋、京都府と連携して、再就業支援研修会の開催を計画しているところであり、退職された方がこれまでの経験を生かして、保育現場に復帰していただけるよう、取組を強化していきます。

小学校へ進学する前の乳幼児期は、将来、子どもたちが大人になって、社会でしっかりと生きていくための人格形成の基礎を培う大変重要な時期です。

そうした時期に、保育の専門職である保育士の確保は不可欠ですので、より効果的な方法を検討しながら、引き続き取り組んでいくとともに、来年4月に開設予定の「乳幼児教育センター」におきましては、保育士のスキルアップにつながる研修・研究等を実施し、乳幼児教育のさらなる充実に向けて取り組んでまいります。

---

次に、小倉議員から提案がありました「地域と親子の絆を深める子育て」についてですが、今日、子どもや子育てを取り巻く環境は、少子化、核家族化、夫婦共働きの増加、地域のつながりの希薄化等を背景に、家庭や地域の子育てする力が弱まってきています。

こうしたことから、本市では、妊娠から出産、子育て、さらには18歳までの切れ目のない子ども・子育て支援施策に取り組み、安心して子どもを産み育てられる環境づくりに取り組んでいます。

具体的には、中総合会館に設置しております子育て支援基幹センターや子どもなんでも相談窓口、前島にあります子育て交流施設「あそびあむ」をはじめ、地域の子育てひろばを開設し、子育て中の親子が気軽に集い交流できる場所を設けて「子育ての相談や情報提供」「子育ての知識を学ぶ講座」を行い、前向きに子育てができるよう様々な取組を行い、子育て世代が安心して子育てできるように、妊娠期から子育て期にわたる切れ目の無い取組を行っています。

それらに加え、市が設置しています7箇所の公民館においては、子育て中の親子がつどい、子育てに関する様々な情報交換や体験活動を行う「子育てサポート教室」など親子を対象にした行事を開催し、子育てを積極的に支援する取組を行っています。

さらに、自治会、町内会が設置している地域の集会所においても、民生児童委員さんによる乳幼児の親子を対象にした子育てサロンや、各小学校区の子育て支援協議会の皆さんに

よる、親子でしめ縄作りなど、昔の遊びなどを通じて、地域づくりにつながる行事などを定期的に行っていただいています。

ご提案いただきましたとおり、公民館や地域集会所を活用したこのような行事は、地域づくりや親子関係を育むうえでも有効な機会の場になると考えています。

そのような場に、中学生の皆さんも地域の一員として参画してもらうことにより、小さな子どもたちも含めた子ども同士や地域の大人との関係づくりが大いに活性化し、意義あるものと思います。

市としまして、地域団体等のご協力をいただきながら、地域の皆さんが世代を超えて交流できる行事を公民館などでより活発に開催し、地域、親子の絆を深め、子育てにつながる取組を充実させていきたいと考えています。

---

次に、築谷議員から提案がありました「地元就職する人を増やすための取組」についてですが、現在、舞鶴市では、築谷議員が参加されました医療体験イベント「ミッション・イン・ホスピタル2」をはじめとして、中学2年生を対象として年に1回実施している「職場体験」や、高校1・2年生を対象に、市内企業を訪問し職場見学と先輩社員との懇談を行う「企業見学会」を実施しております。

市といたしましても、様々な業種の体験型イベント等への参加は、将来の職業を決めるきっかけとなり得る貴重な体験であると認識しておりますので、今後とも中学生の職場体験や高校生を対象とした企業見学会の充実を図ってまいります。

また、ご提案のように、舞鶴市の基幹産業である造船業のジャパンマリンユナイテッドやガラス製造業の日本板硝子をはじめとする「ものづくり産業」、ケンコーマヨネーズなどの食品製造業、そして府内1位の水揚量を誇り、定置網漁を中心に季節ごとにたくさんの種類の魚が獲れる漁業など、様々な職業を体験できるよう、各業界への働きかけを考えていきたいと思っています。

いずれにしましても、築谷議員のように早い段階で将来の夢を見つけることは、その実現に向け前進するために非常に大切であると考えておりますので、市としても中学生の皆さんの夢や目標の実現に向けて支援してまいりたいと考えております。

提 案 ・ 加佐中学校

● 「地元企業でのインターンシップの実施について」 大槻 隆之介

僕は以前、職場体験で学校に行きたいという思いはあったけれど、行くことができませんでした。

また、高校生などで、自分が何の仕事をしたいか決まっている人は少ないと思います。それは、「先のことだ」という思いがあることと、まず仕事について知らないというのが理由だと思います。

そこで僕は、ある活動を提案します。まず期末テストの後などで仕事や会社について知る機会を設け、それを知ったうえでインターンシップに参加してもらいます。それによって、1 回の職場体験だけでもたくさん知ることができます。でも、年 1 回だけのインターンシップでは、この仕事に就いてみたいと考えた時、その 1 回の活動を待たなければいけません。それをなくすため、春・夏・冬休みのそれぞれでインターンシップをすると、よりたくさんの仕事について知ることができると思います。



● 「地域が主体となった防災の取組について」 佐藤 遥

先日の西日本豪雨で、私の住んでいる地域も被害を受けました。今回は台風ではなく大雨だったため、まさかこんなにも水が来るとは思いませんでした。そんなとき近所同士で助け合うのはとても大切だと思います。高齢者が多いため、日頃からつながりを大切に、災害に対する不安を取り除くために何が不安なのかを聞く必要があると思います。

そこで、提案なのですが、定期的に場所を決め、75 歳以上の方と希望者に集ってもらい、日々の生活や趣味を一緒にしてみるなどの交流する機会を設ければいいと思います。はじめは私たちで行うのは難しいため、市が中心になって、いずれは私たち若い人の手で行ってほしいと思います。川が近く高齢者が多いからこそ、安心させてあげることが必要だと思います。



● 「廃校を活用した宿泊施設について」 増本 乃音

加佐地域では人口の減少とともに交通機関が減り、今では病院からのバスも週に1本しかありません。そこで、加佐地域への移住・定住を促進し、人口を増やすために、廃校になった校舎を活用した宿泊施設を造るのはどうでしょうか。宿泊に加えて農業体験もしてもらうことで、加佐地域の豊かな自然の中で自分たちが食べる野菜を自分たちで作る自給自足の生活を体験してもらうことができます。また、校舎を使うことで地域の人も集まりやすく、他の宿泊者の方との交流もできます。地元の人とも関わることで、加佐地域を知ってもらうことができます。その様子を市のホームページやSNSを通じて発信することにより、さらに多くの方々にこの体験や加佐暮らしの良さを伝えることができると思います。



答 弁 ・ 多々見良三市長

まず、大槻議員から提案がありました「地元企業でのインターンシップの実施」についてですが、舞鶴市では、年3回実施している合同企業説明会の中で、本市へUターン就職を希望する大学3年生等を対象に、インターンシップ説明会を実施しており、参加する学生も年々増加傾向にあります。

また、市教育委員会においては、中学2年生を対象に毎年、職場体験を実施しており、高校生に対しても、現在、市内企業を訪問し、職場見学と先輩社員との懇談を行う「企業見学会」を開催しているほか、この8月には、中高生を対象とした医療体験イベント「ミッション・イン・ホスピタル」において、多くの参加者が病院での職場体験を行ったところであります。

大槻議員のご提案のとおり高校生のインターンシップについては、地元での就職に大変有効な取組であると認識しておりますので、実施にあたっては、高校生のインターンシップを受け入れる企業側、送り出す学校側の環境が整うように、市といたしましては、企業、学校双方への働きかけを考えていきたいと思っています。

いずれにいたしましても、将来、自分がどんな職業に就くかという目標を早いうちに決めることは大変大切であると思っておりますので、市としても中学生の皆さんの夢や目標の実現に向けて支援してまいりたいと考えております。

次に、佐藤議員から提案がありました「地域が主体となった防災の取組」についてですが、先の7月豪雨では、本市においても、お一人の尊い生命が奪われるとともに、市内の至る所で、土砂崩れや家屋の浸水など、大きな被害がもたらされたところです。

市では、由良川流域において、国と協力して、輪中堤や宅地嵩上げ等の「緊急治水対策」を進めるとともに、この5月には、旧岡田上小学校において、加佐地域の皆様に参加いただくなか、「由良川水系総合水防演習」を実施したところです。

併せて、ハザードマップなどを活用し、地域の危険箇所の把握、避難所や避難ルートの確認、災害時に取るべき行動など、日頃からできる災害への備えと、災害に対する心構えについても、その周知に努めているところです。

さらには、近隣や地域の人々が協力し合いながら、防災活動に取り組む「共助」の精神が大切となってまいります。

これらを育むためには、提案のあった「高齢者などに集まってもらい、日々の生活や趣味を一緒にしてみるなど交流する機会を設ける」という活動は、とても有効であり、日々のこうした地域でのコミュニケーションが、「地域の防災力」を高め、地域での助け合いの行動につながるものと考えております。

また、近所同士での助け合いや、日頃からのつながりを大切にし、災害に対する不安を取り除くためのひとつの方法として、地域の方々と一緒に、「防災マップ」を作成することが、地域のつながりをつくるきっかけになるものと思います。

「防災マップ」とは、ハザードマップや避難所一覧などを参考に、避難する際、どのような危険や不安があるかを話し合い、実際に地域を歩いてみて、危ない場所を確認するとともに、過去の歴史や経験を調べ、地図上に、危険箇所や、避難所までのルートを書き込むものです。

市といたしましても、皆さんの活動を支援し、災害に強い「安全で安心なまちづくり」を進めてまいりたいと考えておりますので、できることから、一緒になって取り組んでまいりましょう。

---

次に、増本議員から提案がありました「廃校を活用した宿泊施設」についてですが、舞鶴市における人口減少は、今後、様々な影響を及ぼすことが考えられますが、例えば、加佐地域におけるバス運行では、通院に支障が出ないように加佐地域全域を巡回する加佐診療所のバスに加え、地域のニーズに応じて、地域の方々が自らダイヤを決めて運行されている自主運行バス、また西舞鶴駅を起点とする京都丹後鉄道も地域の足として活用されているように、私たちは創意工夫と地域との協働により利便性を高め、この課題をしっかりと克服してまいります。

増本議員からご提案いただいた本市の豊かな自然環境を活かした体験や地域との交流は、舞鶴ファンを増やすためにとても良い取組だと思えます。

私たちも、閉校の活用につきましては、地域への貢献を第一に活用してまいりたいと考えており、現在、舞鶴市には閉校となった小・中学校が6校あり、そのうち、鉄筋コンクリート造で今後も十分活用可能な5校（旧丸山小を除く）については、民間事業者等によって宿泊施設への再利用をはじめ、ベンチャー企業による利活用など、地域活性化につながる活用方法について、広く活用提案を募集しているところです。

閉校となった小・中学校は長年に渡って地域の皆さんに大切にされてきましたことから、市としては、それぞれの地域の特徴にあわせ、地域福祉の向上や地域産業の振興につながることを念頭に置きつつ、閉校を活用し、その様子をSNSや市のホームページを通じて広く発信することで、地域の活性化につなげてまいりたいと考えております。

現在、加佐地域の活性化センターとして、大庄屋上野家があります。上野家では、農業を楽しんだり、地域の人と交流するイベントを開催しております。この上野家と閉校をつなげて、加佐地域の活性化にさらに一役買うことができればと思います。

## 提 案 ・ 青葉中学校

## ● 「女性消防団員の加入を促す取組について」 坪倉 咲希

私が、このテーマを選んだ理由は、私の父が消防団員をしていることから、もともと消防団について興味があったことに加え、父からときどき、消防団の団員数が減ってきているという話を聞いていたからです。

なぜ、女性が消防団に加入しないのか。その理由を二つ考えてみました。一つ目は、男性が入るものというイメージがあること、二つ目は、消防団について関心や興味がないということです。そ

こで、女性に消防団について関心を持ってもらうための取組を提案します。具体的な取組としては、ホース等を軽量化して女性にも扱いやすくします。消防団の活動を体験する機会を作り、女性ができる活動内容を紹介します。また、18 歳以上であれば高校 3 年生でも消防団に加入できることをラジオ等で呼びかけることも有効だと思います。



## ● 「災害時の避難情報の伝達について」 麻尾 遙弥

今年、大雨などの災害が多くありました。特に、7月の豪雨では自分の家が被害に遭う可能性があることを知らずに、避難せず逃げ遅れる人がいました。そのような人は、ハザードマップなどを見ていなかったり、配布されていたことを知らなかったりしたのかもしれない。

自分の命を自分で守るためには、ハザードマップなどの情報を自分から見る大切だと思います。このことに加えて、僕が大切だと考えていることがあります。それは、声を掛け合うことです。例えば、高齢者の方は、自分で判断して避難することができない人もいます。そのような人には、僕たちは普段からあいさつをして関係を築き、同じ地域にどんな人が暮らしているか関心を持って、避難の時は声を掛け合うことが重要だと思います。ハザードマップなどの活用やつながりのある地域づくりが、避難しない人を行動に結びつけると考えます。



● 「地域社会で継続的に取り組む健康づくりについて」 中谷 泰士

最近では少子高齢化が進み、高齢者が増加しています。しかし、健康づくりのために運動を継続することで、病気にかかりにくくなり、長生きできる人が増加すると思います。

また、病気にかかりにくくなることで、医療費がいらなくなり、例えば災害の復旧支援などに税金を使うことができると思います。

そこで、僕は「つないで仲良くウォーキング」を提案します。取組内容としては、家族や身近な人と一緒に歩いた距離に応じて、ポイントカードにポイントがもらえます。貯まったポイントに応じて商品がもらえたり、税金等が安くなったりします。このように、身近な人との会話を楽しみながら歩き、歩くことによって得ることができれば、継続しやすくなると思います。



答 弁 ・ 多々見良三市長

まず、坪倉議員から提案がありました「女性消防団員の加入を促す取組」についてですが、本年 8 月 1 日現在の本市の消防団員数は 1,075 名で、定数の 1,380 人に対して 77.9%の充足率であります。

消防団員は、年々減少傾向にあり、その確保が困難となっておりますことから、市では消防団員募集のパンフレットやポスターの作成、FM放送での呼びかけなどのPRに加え、消防団員が少しでも活動しやすくなるよう、手当の見直しや、事業所への働きかけなどを行い、消防団員の確保に努めているところです。

女性消防団員につきましては、近年全国的に増加しており、災害対応だけでなく、女性の持つソフトな面を生かして、高齢者宅への防火訪問や応急手当の普及指導などでも活躍されています。

現在、本市の女性消防団員は 6 名ですが、今後多くの女性が消防団員として活躍していただきたいと考えているところです。

坪倉議員の提案のうち、まずホース等の軽量化に関しましては、本市では、ホースに限らず消防資機材の軽量化に努めており、今後も女性等にも扱いやすい資機材を導入に努めます。

次に、消防団の活動を体験する機会を作る提案につきましては、入団促進につながるものと考えため、今後検討してまいります。

次に、18 歳以上であれば高校生でも加入できることをラジオ等で呼びかけることにつきましては、男女を問わず、今後も市民の皆様幅広く呼びかけてまいります。

いずれにいたしましても、近年の災害を考えますと、消防団員は必要不可欠な存在でありますことから、今後も引き続き、消防団員の確保に努めてまいります。

---

次に、麻尾議員から提案がありました「災害時の避難情報の伝達」についてですが、先の7月豪雨では、本市においても、お一人の尊い生命が奪われるとともに、市内の至る所で、土砂崩れや家屋の浸水など、大きな被害がもたらされたところです。

水害や土砂災害は、深夜にも発生します。慌てず、いざというときの備えを進めておくことが大切です。

市では、各地域に赴き、水害や土砂災害、地震や津波などの災害から生命を守るため、必要な行動を伝える「出前講座」を開催するとともに、自衛隊や海上保安庁、警察、消防などが一堂に会し連携を図る「総合防災訓練」を、昨年度、実施したところです。

併せて、ハザードマップなどを活用し、地域の危険箇所の把握、避難所や避難ルートの確認、災害時に取るべき行動など、日頃からできる災害への備えと、災害に対する心構えについても、その周知に努めているところです。

さらには、災害時に大切なことは、自分や家族を災害から守る「自助」、近隣や地域の人々が協力して災害に備える「共助」の精神です。

これらを育むためには、地域の人々が普段から声を掛け合うことが必要であり、近所にどんな人が住んでいるのか、家族構成はどうなっているのか、避難に手助けを必要とする方がおられるのか、そうしたことを近隣の住民が知り合っているだけでも、災害時の行動が変わってきます。

日々のこうした地域でのコミュニケーションが、「地域の防災力」を高め、避難などにおいて、地域での助け合いの行動につながるものと考えており、提案のあった「同じ地域にどんな人が暮らしているか関心を持って、避難の時は声を掛け合いたい。」という防災活動に、大変、期待しているところです。

さらに、「ハザードマップの活用や、つながりのある地域づくり」の実現には、先ほど申し上げました、地域の方々との「防災マップ」づくりも、有効な方法になるものと思います。

市といたしましても、皆さんの活動を支援し、災害に強い「安全で安心なまちづくり」を進めてまいりたいと考えておりますので、できるところから、一緒になって取り組んでまいりましょう。

---

次に、中谷議員から提案がありました「地域社会で継続的に取り組む健康づくり」についてですが、本市では、「一人ひとりが主人公、みんなでつくろう健康なまち・まいづる」を基本理念とした舞鶴市健康増進計画を策定しており、その中で、身近な人と共に、楽しみながら取り組む健康づくりの推進を重点施策として位置付けています。

そのような中、市でも平成 28 年度から取組を始め、ウェアラブル活動量計を活用した歩数増加の検証や、親子や友達と励まし合いながら頑張る「親子で楽しむわくわくウォーキング」や「国保ペアマッチウォーキング」などのウォーキング事業を実施してきました。

これらの結果、事業の取組期間中は、参加者の歩数増加や運動習慣の定着化が見受けられましたが、イベント終了後は運動の継続率が減少するなど、課題が残っているところです。

提案のありました、身近な人と一緒にポイントを貯めながら歩く「つないで仲良くウォーキング」については、貯めたポイントに応じて、商品券などと交換したり、福祉団体や学校へ寄付するなど、全国的にも様々な形で実施されている取組と認識しています。

市としても、健康寿命の延伸を目指す中、運動の継続については重要な課題であることから、現在、大学や企業など関係機関と連携して、健康ポイントの導入も含め継続して歩く人を増やす仕組み作りに向けて、検討を進めているところです。

提 案 ・ 和田中学校

● 「舞鶴ならではの体験型ツアーの開催について」 川井 玄仁

舞鶴には、いろいろな観光地が存在しています。その中には、見るだけや話を聞くだけのものが多くあると思います。でも僕は、自分が体験できる方が外国人観光客も増えると思います。

また、舞鶴には、もうすでに体験施設がありますが、正直あまり知名度は高くないと思います。僕自身も、舞鶴かまぼこ工房は校外学習で行くまで知りませんでした。

そこで、僕から提案です。舞鶴ならではの体験型ツアーを企画し、発信してみてもどうでしょうか。例えば、今あるかまぼこ工房や引揚記念館に加え、民宿に泊まり朝早く船に乗って漁の体験をしたり、干物を作ったりできる「1日漁師ツアー」や、五老ヶ岳の山道を登って山頂から見る素晴らしい舞鶴湾の景色を写真に撮ってもらう「近畿百景の五老ヶ岳まるごとツアー」です。それらの体験を、SNSを利用して発信してもらってはでしょうか。



● 「生徒全員がしっかりと学べる学校づくりについて」 廣田 一斗

僕たちの学校では、自分から学ぼうとする人がいる中で、そうしようしない人が多いと感じています。

その課題をなくすために、一つ目に、舞鶴市の教育の取組を生徒にアピールしていかなければならないと思います。具体的には、市長さんの講義で僕たちが受けている教育を直接伝えてほしいということです。例えば、夢チャレンジテストや英検受検料の補助に税金を使ってもらっているということなどです。

二つ目に、夢チャレンジテストの結果を活用して課題克服のための学習週間の取組を設定してほしいということです。

この二つをすることによって、生徒の意識が変わり、学習に対する意欲が高まると思います。その結果、進路、その先の夢や職業の実現につながると思います。



● 「誰もがスポーツを楽しめる環境づくりについて」 岩永 一哲

最近、整備が完了された伊佐津川運動公園のように、整備後、有料になったことで利用者数が減った公園などの施設があります。そこで、整備されたこの施設に限らず、市内の運動施設の利用者を増やし、スポーツ人口を増やすため、各スポーツのイベントを定期的を開催することを提案します。



対象者は、これから始めようとしている初心者、スポーツクラブや学校の部活に所属している人、健康な体作りを目的とした高齢者とします。それらの人々が、スポーツと親しむきっかけとなり、より市のスポーツのレベルを向上させることとなれば、多くの人がスポーツを楽しめるまちが完成するのではないのでしょうか。

答 弁 ・ 多々見良三市長、奥水孝志教育長

まず、川井議員から提案がありました「舞鶴ならではの体験型ツアーの開催」についてですが、舞鶴若狭自動車道と京都縦貫自動車道の全線開通に伴い、京都や大阪、名古屋などの大都市との時間距離は大幅に短くなり、利便性が飛躍的に高まったところです。

本市への観光入込客につきましても、平成 23 年には約 140 万人であったものが、平成 29 年には 250 万人を上まわるなど、市内の観光地には、他府県から多くの観光客が訪れるようになりました。

こうした中、観光名所を巡る従来型のツアーではなく、その土地特有の観光資源を活かした体験型ツアーの商品化に力を注ぐことは、とても有効な観光施策であると思います。

現在、「舞鶴かまぼこ手作り体験」は、台湾や韓国などの外国人観光客に大変好評いただいているところですが、これに加えて、今回提案いただいた豊かな海を活かし、地域の方々と触れ合うことができる「干物づくり体験」や「1 日漁師ツアー」、緑豊かな自然を満喫できる「五老ヶ岳の山登りツアー」などを商品化することは、近年人気のアクティビティに着目した素晴らしい提案であると思います。

また、それらの体験をインスタグラムなどの SNS で発信する仕組みを構築すれば、幅広い情報発信による効果的な PR につながると思います。

地域経済の活性化には、交流人口を増やすことが大切であると考えており、そのためには、今後とも市役所だけでなく、地域の方々や本市の特産品づくりに係わるの方々、また観光協会をはじめとする様々な団体と役割分担をしながら、共に連携し、本市の観光産業の発展に取り組みたいと考えています。

次に、岩永議員から提案がありました「誰もがスポーツを楽しめる環境づくり」についてですが、スポーツを通したまちづくりは、本市が取り組んでいる「心豊かに暮らせるまちづくり」を進めるうえで、非常に大切なことであると考えています。

新しくなった伊佐津川運動公園については、よりレベルの高い施設でプレーをしていただけるよう、府北部の公営施設では初となる、人工芝グラウンドを設置したところであり、適切な管理を行うため有料化しておりますが、現状ではサッカー、グラウンド・ゴルフなど、多くの方に大変喜んでご利用いただいています。

利用者数については、今年4月にグラウンドオープンしたところであり、管理人を置いて正確な数値を集計し始めたところですので、今後の推移を見守っていきます。

ご提案いただいた、スポーツイベントの開催については、スポーツに親しんでいただける環境づくりを進めるうえで、大きな効果があると考えていることから、現在もトップアスリートによるスポーツ教室の実施や、全国規模の大会誘致など競技団体と協力しながら取り組んでいるところです。

市といたしましては、今後も、利用者の皆様のご意見をお聞きしながら、市内のスポーツ施設を有効に活用したイベントの開催、年代を超えて気軽に取り組むことができるウォーキングコースの整備や、ニュースポーツとして本市が考案した、カーリングに似た「舞パック」の紹介と普及に努めるなど、より多くの市民の皆様がスポーツを楽しめる環境づくりに積極的に取り組んでいきます。

廣田議員の教育に関する提案については、教育長から答弁します。

---

廣田議員から提案がありました「生徒全員がしっかりと学べる学校づくり」についてお答えします。

これからの社会は、基礎的な知識や技能、思考力・判断力・表現力とともに、主体性をもって様々な人々と協働して学ぶ態度などを身に付けることが大変重要であると言われています。本市といたしましては、それらの学力の育成を教育の最重要課題として取り組んでいるところです。

まず、夢チャレンジテストや英検受験料の補助など、税金を使った教育の取組を市長の「ふるさと舞鶴講義」などで中学生に直接伝えることについてですが、生徒の皆さんが本市の取組を直接知ってもらうことはとても大切であると考えています。この「ふるさと舞鶴講義」は、ふるさと舞鶴に誇りと愛着を持ち、地域社会に貢献する人材として成長してほしいという願いや、しっかり学ぶこと、夢・志をもつことが大切であることを市長から伝えていただいています。本市の教育の取組については、「ふるさと舞鶴講義」をはじめ、学校だよりや本市の広報誌等、様々な方法で理解いただけるよう取り組んでいきたいと考えています。

次に、夢チャレンジテスト後に学習週間を設ける提案についてですが、学校においてはこれまでから各教科のテスト結果を分析し、見えてきた課題をもとにして、授業の中で単元の復習を行ったり、補充的に課題を取り入れたりして克服を図っています。また、生徒一人一人にとっては自らの学習を振り返る資料となっています。

今回提案していただいた生徒一人一人の課題に合わせて学習を集中的に行う「学習週間」の設定につきましては、一つの案として検討し、これまでから行っている取組と合わせて、生徒の学習課題に応じた取組を一層充実させていきます。

いずれにいたしましても、中学生の皆さん一人一人の夢が実現できるよう、学力向上の取組をはじめとする教育を学校とともに推進してまいります。

## 提 案 ・ 城北中学校

## ● 「地域の公園活用について」 高尾 悠冬

皆さんは、自分が初めて父親、母親になった時、どのような想いを持ちましたか。僕なら、「近所の人ってどんな人だろう。」とか「自分の子育ての方法って本当に合っているのかな。」などの悩みを感じると思います。このような悩みは、地域のつながりを深めることによって解消され则认为ます。その手段として、地域の公園活用について提案します。



具体的な方法として、一つ目は、公園で定期的にイベントを開催するという事です。イベントを通して、人と人とのつながりが深まり、その中で子育てのアドバイスがもらえると思います。二つ目は、公園清掃の日を作るという事です。雑草引きやゴミ拾いなどを通して、地域の結束力や地域の安全が高まり、公園を大切にすることにもつながると思うからです。

## ● 「舞鶴で働いて暮らすための環境づくりについて」 大機 快聖

舞鶴の人口は 2040 年には、約 1 万 5 千人も減少すると推計されています。僕は、舞鶴を活気あるまちにするために、転出した舞鶴の人々が舞鶴に戻り、舞鶴で働いて暮らせる環境を作ることが大切であると考えます。



一つ目の方法として、イベントで舞鶴の企業を P R するブースを作り、企業の人に参加してもらったり、市のホームページで企業を紹介するコーナーを作ったりします。高校を卒業して、市外の大学に通う人が、卒業後に舞鶴に戻ってきてくれると思います。

そして、二つ目の方法として、市の土地や建物を市外の企業や舞鶴に移住したい人に格安で提供することです。さらに、廃校などの空いた施設での起業を目指す人に格安で貸して、ベンチャー企業を育てることです。

● 「ふるさと舞鶴を愛する人を増やすことについて」 一ノ瀬 開斗

舞鶴に住んでいる皆さんは、どれだけ地域の良さを知り、地域の人たちと交流をしていますか。地域の人たちとの交流を通して、顔見知りになれば、地域の人たちに見守られて安心して子育てができるし、地域の人たちが子育てを助けてくれると思います。地域の人たちとの交流を深めるためには、地域のお祭や行事などに積極的に参加することが大切だと思います。そして、地域の人や地域のことを知ることで、地域に愛着や誇りを持つことができます。



僕は、ふるさと舞鶴を愛する人を増やすことで、舞鶴で働いて、暮らし続ける人も増やすことができます。

答 弁 ・ 多々見良三市長

まず、高尾議員から提案がありました「地域の公園活用」についてですが、少子化や核家族化が進み社会のつながりも希薄になる中、様々な要因による外遊びへの不安、塾や習い事の増加、携帯型ゲームなどの普及により、昔のように、地域の公園で外遊びをすることが減ってきています。

こういう状況に対応して、本市では、子どもと多様な世代が共に遊びを体験し交流する機会を創出するとともに、子育てに関する相談、情報の発信等を実施する、子育て交流施設「あそびあむ」を開設しています。このほか、子育て支援基幹センターや地域の子育てひろばにおいては、子育ての不安解消や年齢に応じた子育ての知識を学ぶ機会を設け、お母さんが一人で悩まず前向きに子育てが出来るよう様々な取組を行っています。

また、身近な地域では、赤ちゃんが産まれたご家庭を対象に、地域の民生児童委員や主任児童委員さんが、子育て情報ファイルや子育てグッズのプレゼントを持って訪問し、赤ちゃんの誕生を祝い、不安や悩みをお聞きする「こんにちは赤ちゃん訪問」や乳幼児親子を対象にした子育てサロンの開催など地域のつながりとなる取組を行っています。

ご提案いただきました公園でのイベント開催や、清掃活動は、子育て世代の親子が地域の皆さんとつながりを深める有効な機会になると考えられます。

公園に多くの地域住民が集い、子育ての相談や悩みを話せる憩いの場となれば、地域の絆、親子の絆を深め、子育てしやすいまちづくりにつながるものと思います。

市としましては、公園活用に向けた身近な地域づくり活動を支援するとともに、子育て交流施設「あそびあむ」等において、子育てに関する相談や情報発信を行い、子育てに関する不安等を解消し、子育てする喜びを感じることができる取組を充実させていきたいと考えています。

---

次に、大機議員から提案がありました「舞鶴で働いて暮らすための環境づくり」についてですが、私たちもとても大切なことだと考えており、就職支援のための施設整備やSNSを通じた企業情報・求人情報の発信に努めています。

例えば、商工観光センター内の就職支援施設では、西地区の港近くにあり国が運営するハローワークや、福知山駅前であり京都府が運営する京都ジョブパークと連携して、市内の企業情報を就職希望の人へ提供することにより、雇用を進めるとともに、各種セミナー等を実施して雇用機会が広がるようにしております。

また、企業と就職を希望する人とのマッチングイベント「ふるさとコール maizuru」など、年3回の催しでは、企業が窓口を設けて、高校や大学の新卒者をはじめとする若年求職者が求人事業者から企業説明を受け、直接やりとりをする機会を設けています。また、市が運営するポータルサイト“舞鶴”企業・就職応援ネットでは、舞鶴での就職や起業活動を増やすため、SNSを通じて、舞鶴の求人情報や企業情報、舞鶴での企業活動を行うための情報をわかりやすく伝えています。

さらに、市内の空き家を10年間お借りして、市が直接改修して移住者に格安で賃貸する仕組みを作ったり、閉校した小・中学校では、市外のベンチャー企業をはじめとする民間事業者等によって、地域活性化につながる活用をしてもらおうべく、広く活用提案を募集しているところです。

加えて、転出した人たちが舞鶴に戻ってきていただくには、子どもの時からふるさと舞鶴への愛着と誇りを醸成することが大切であると考えられることから、中学生を対象に「市長のふるさと舞鶴講義」も一環として行っているところであり、今後も、転出した人たちが舞鶴に戻り、舞鶴で働いて暮らせる環境づくりをしっかりと進めていきたいと考えております。

---

次に、一ノ瀬議員から提案がありました「ふるさと舞鶴を愛する人を増やすこと」についてですが、ふるさと舞鶴への愛着と誇りを高める取組はとても大切なことだと思います。

私自身、子どもたちがふるさと舞鶴への愛着と誇りを持ちながら自らの夢や目標に向かって成長していけるよう、本市の人、産業、自然、文化、歴史を探究するふるさと学習として「市長のふるさと舞鶴講義」もその一環として取り組んでいるところです。

また、舞鶴市はとても地域行事が盛んな地域で、例えば、“田辺城まつり”や“朝代神社の祭礼行事”、“吉原の太刀振り”など、ふるさとを代表する文化・歴史があり、また町内会などが中心となって、地蔵盆や敬老会、お祭り、公園の清掃活動など様々な行事が行われています。公民館などでは「ふれあいサンデー」が行われ、幼児や小中学生からお年寄りまで、幅広い世代が集って文化や芸術の発表を通して、住民の交流を図っているほか、自治連合会が消防団とともに住民に呼び掛けて防災訓練を実施されたりしています。

こうした地域ごとに行われる行事はとても大切なことで、皆さんも、ぜひ参加していただいて、地域の方々と一緒に地域を盛り上げていただきたいと考えております。もちろん、市もこうした取組を応援しておりますし、私も市長として、市の職員に「地域行事には積極的に参加してください。」と呼びかけております。

地域コミュニティが充実し、住んでいる人々が、自分のまちのことを知り、自分のまちを誇りに思うようになることが、心豊かに暮らせるまちづくりの第一歩であり、定住人口の減少抑制にもつながると考えるため、今後も、みなさんと一緒に、こうしたまちづくりに力を入れてまいります。

## 提 案 ・ 若浦中学校

## ● 「舞鶴に繰り返し訪れてもらうための観光の取組について」 大橋 史佳

舞鶴の定住人口は減っていくばかりだと知りました。そこで、私たちの住んでいる素晴らしい舞鶴をもっと知ってもらい交流人口を増やすために、スタンプラリーを考えました。

内容は舞鶴が誇る自慢の名所だけでなく、「五老スカイタワー」や「あそびあむ」など子どもも楽しめるスポットも加えてスタンプを設置します。特に赤れんがパークのような広い所には数ヶ所設置します。スポットを巡り、用紙がいっぱいになったら1回目がクリアとなり「舞鶴観光巡り賞」がもらえます。2回目で「舞鶴観光博士賞」、4回目を終了し「舞鶴検定」に合格すると、「舞鶴プロ観光大使」となります。ねらいは、繰り返し訪れて交流人口を増やすこと、大人から子どもまで誰もが楽しめること、この二つです。

このスタンプラリーで、子どもや10代の人たちにも舞鶴の魅力をいっぱい知ってもらえるとうれしいです。



## ● 「農山漁村地域における廃校跡地等の活用について」 猪野 北斗

僕の住んでいる野原には、スポーツのできる広場がありません。だから、家から外に出る楽しみがないのが現状です。この悩みを解決するために、僕は旧野原小学校跡地等をスポーツ広場として活用し、子どもも大人もスポーツを楽しめる環境をつくることを提案します。しかし、掃除などの管理が難しいという問題点もあります。

このことを解決するために、もう一つ提案します。それは、地域内でボランティアを募り、大人、小・中学生みんなで掃除し、管理する仕組みを作るということです。スポーツ広場を自分たちで掃除することで、自主性、責任感が高まるという効果も考えられます。このような環境ができれば、確実に地域が元気になります。これが、舞鶴市の目指す、活力のあるまちづくりにつながることになるでしょう。



● 「相手を理解し一人一人を大切にすることを育むことについて」 吉田 佳子

若浦中学校では、学び合いを大切にしています。学び合いとは、友達といっしょに問題について考え、新しい考えを生み出すことです。学び合いを行うことで、深く考える力や筋道立てて説明する力がつきます。また、相手の意見を取り入れ、自分の意見と合わせて一人では考えられない新しい考えを創ることもできます。学び合いは学力だけでなく、相手の思いを受け止めて理解する力を付けることができるようになるのです。だから、私は、先生と生徒と一緒に学び合うことができる授業を提案します。学び合いを取り入れることで、一人一人の考えを尊重することができるようになります。私たちがこの考えを持って生活し、様々な立場の人を大切にできるまちをつくっていきたいです。



答 弁 ・ 多々見良三市長、奥水孝志教育長

まず、大橋議員から提案がありました「舞鶴に繰り返し訪れてもらうための観光の取組」についてですが、交流人口を増やすためには、本市へ訪れた観光客が、何度も舞鶴へ訪れて頂くことも必要だと思います。

そのためには、ひとりでも多くの人に舞鶴市の魅力を知って、舞鶴を好きになっていただくことが、大切であると思います。

今回、ご提案いただいたスタンプラリーは、従来のスタンプラリーとは違い、ポイントをクリアし難易度を上げていくことで、ステージをクリアした人に「舞鶴観光博士賞」を授与するなど、観光地巡りにゲーム性を持たせるという点において、大変興味深いアイデアが盛り込まれていると思います。

本市には、大橋議員から紹介のあった場所以外にも、いい所がたくさんありますし、農産物や水産物など季節に応じた美味しい食べ物も豊富にあります。

また、今年の4月には、2020年に放送されるNHK大河ドラマが明智光秀の生涯を描く「麒麟がくる」に決まりました。

戦国時代に明智光秀の盟友として活躍した細川幽斎・忠興が大きく取り上げられれば、細川家ゆかりの城下町である西地区が脚光を浴びるものと期待しています。

今後は、これらの魅力的な観光資源を活かしつつ、子どもから大人までが楽しめる、ゲーム性豊かで達成感のあるスタンプラリーなどの企画を検討したいと思います。

将来にわたって、交流人口を増やすためには、子どもたちや 10 代 20 代の若い人たちに、ふるさと舞鶴の魅力を伝えることが大切です。

今後とも、若い世代に積極的に働きかけ、ひとりでも多くの方に舞鶴ファンになっていただくことで、交流人口の拡大につなげたいと考えています。

---

次に、猪野議員から提案がありました「農山漁村地域における廃校跡地等の活性化について」ですが、市では、東舞鶴公園や青葉山ろく公園、五老ヶ岳公園をはじめとして、市内外を問わず多くの皆様にご利用いただく「都市基幹公園」のほか、松島公園や中舞鶴公園、舞鶴公園など、地域の皆様が気軽にご利用いただいている「住区基幹公園」など、様々な機能、目的に応じた公園を整備しています。

さらに、地域で用地を確保していただき、市が遊具等を設置している「ちびっこ広場」が市内には 166 箇所あります。

特に、このちびっこ広場は、地域の皆様の要望によって多目的にご利用いただくことが可能な広場で、清掃や草刈り等の日常管理を地元自治会でお世話になっており、施設の修繕や樹木の剪定、遊具の定期点検は市で行うなど、地域の皆様と協働で環境整備や安全管理に留意し、快適にご利用いただくよう努めているところです。

ご提案の廃校跡地等をスポーツ広場として整備することについてであります。廃校跡地をはじめ、現在使用されていない、まとまった遊休地等、地域から多目的に活用できる用地をご提供いただければ、地域の皆様と協議させていただきながら取り組んでまいりたいと考えています。

いずれにいたしましても、子供から大人まで地域の皆様が参加していただく自主的な管理体制を構築していただき、公園や広場等が憩いの場・コミュニティの場として、様々な行事が行われることで、地域の活性化が図られることは、市の活力あるまちづくりの実現につながると考えておりますことから、市といたしましては、より一層元気な地域づくりの支援に努めてまいります。

吉田議員の教育に関する提案については、教育長から答弁します。

---

吉田議員から提案がありました「相手を理解し、一人一人を大切にすることを育むこと」についてお答えします。

若浦中学校では、生徒が学び合う授業を通して、学力の向上と互いに認め合い、支え合う関係づくりに取り組まれており、生徒の皆さんの授業に対する意識も高まっていると伺っています。

「学び合い」のある授業の学習効果については、吉田議員からの紹介のとおり、「深く考える力」や「筋道立てて説明する力」の育成をはじめ、互いに認め合い、支え合う関係を築くなどの効果が認められています。本市におきましても若浦中学校をはじめ、複数の学校で、「学び合い」のある授業に取り組んでいる状況があり、全国的にも多くの学校で採り入れられています。

この「学び合い」のある学習指導方法は、現在、国が導入を進めている「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりの一つの手法でもあり、近く全国の小・中学校で全面实施される新学習指導要領において、この「主体的・対話的で深い学び」が、国語、社会、数学、理科などの教科を問わず、授業の欠かせない要素として、全ての小・中学校で採り入れることとなっています。

今後、本市の小・中学校におきましても「学び合い」をはじめとする「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業を行い、その授業をとおして、友達の思いを受け止め、相手を理解する力の育成にも取り組んでいきたいと考えています。

本市といたしましては、児童生徒と教師が「学び合い」の授業を推し進めることによって、学力の向上とともに、互いに認め合い、支え合う関係を築いてくれることを心から願い、さらにこの学習が心豊かなまちづくりへとつながっていくものと期待しています。

## 提 案 ・ 城南中学校

## ● 「誰もが安心して通行できる道路整備について」 秋田 真希

今、私たちの学校では西舞鶴高校西門に面した道路の登下校について問題になっています。学校からの生徒への注意も十分伝わらず、生徒が道路に広がり過ぎてしまうことが一つの要因になっています。その影響は道路を通る人にまで広がり、車で通る人はとても通りにくそうにしています。私はこの問題は、とても大きなものだと考えています。



道路は誰か一人のためにあるものではありません。その道を通る人、全てのものであります。私は、各学校の登下校時の安全確保について生徒会などから呼びかけができれば良いと考えています。しかし私たちの力だけでは限界があります。そこで、誰もが安心して通ることができる道路の整備を舞鶴市として進めていただきたいと思います。

## ● 「自然体験ができる清掃活動の取組について」 坂根 翔太

この舞鶴市にとって「海」は重要な観光名所だと思います。しかし、ゴミのある海で楽しむことはできるでしょうか。

そこで僕は夏休み前のゴミ拾いを提案します。例えば川のゴミ拾いなら魚獲りやカヤック等の体験を加えることで楽しいゴミ拾いになると思いませんか。海なら、拾った貝やゴミを使ってアート作品を作ったり、作品の展示会を開いたりするのも良いと思います。ただ、ゴミを拾うだけでなく、誰もが楽しめることを一つでも加えることで、幅広い年代の多くの人に集ってもらえると考えました。



これからの取組が海や川だけでなく、きれいなまちを作るきっかけになれば良いと思います。

● 「地域活動により元気な高齢者を増やす取組について」 宮越 楓斗

まず、健康になるために、高齢者の方でも運動ができるようにすることです。体を動かすことは健康にとっても良いと思います。高齢の方が走っているのを見かけた時、とても元気そうに見えました。また、その人は通りがかりの人にあいさつをしていて、地域との関わりが深いと思いました。



そこで、舞鶴オリジナルの健康体操を考案し、毎朝決まった時間に決まった場所へ集まって、子どもから大人まで体を動かし、触れ合いが持てる取組をすればどうでしょうか。そして、体操が完成したら、ネーミングや曲、キャラクターやTシャツなど、いろいろなアイデアを市民から募集して、たくさんの人がつながっていけば、さらに盛り上がると思います。関わりを持つことで地域の活性化にもつながり、舞鶴がより良く発展していくと思います。

答 弁 ・ 多々見良三市長

まず、秋田議員から提案がありました「誰もが安心して通行できる道路整備について」ですが、現在、本市には、4路線、延長約44kmの国道や、26路線、延長約165kmの府道、そして3,024路線、延長約880kmの市道など、合計約1,089kmの道路があり、異常や破損により通行に支障が無い等等、常に維持管理に努めています。

また、道路を整備する際は、交通量の多い幹線道路には、バリアフリーに対応した歩道を設置するほか、生活道路においても危険な個所にガードレールやカーブミラー等の設置や、道路の端に白線を引き、歩行者と車両を分離するなど、交通安全対策に取り組んでいるところです。

秋田議員仰せの西舞鶴高校西門に面した市道八丁通線は、歩道が整備されていない生活道路ですが、登下校時、多くの生徒の皆さんが利用されていることを認識しています。

そのため、登下校の時間帯を歩行者・自転車だけの通行可能と規制していることと併せ、舞鶴警察署、市、地域の皆様と連携して、平成29年3月には、このエリアを「ゾーン30」に指定し、エリアの入口に標識や路面表示を設置して、車両の最高速度を時速30kmに規制するなどの対策を実施しているところですが、さらなる安全対策について引き続き検討してまいります。

いずれにいたしましても、道路を通行される全ての方々が譲り合いの心を育んでいただき、道路を快適にご利用いただきたいと思います。

次に、坂根議員から提案がありました「自然体験ができる清掃活動の取組」についてですが、市では第2期環境基本計画において、ごみのない美しい舞鶴の景観や豊かな自然環境を保全するため、まいづる環境市民会議をはじめとした市民団体や市民、事業者の皆様と連携し、清掃活動により多くの市民の皆様に参加していただける取組を進めることとしています。

夏の観光シーズンに向けましては、「舞鶴の川と海を美しくする会」においては、6月を美化強調月間として、また、「まいづるクリーンキャンペーン実行委員会」においては、7月をクリーンキャンペーン期間として、毎年多くの市民の皆様参加のもと清掃活動に取り組んでいただいています。

また、「まいづるクリーンキャンペーン実行委員会」では、毎年、竜宮浜海水浴場や神崎浜海水浴場において、清掃活動イベント「ビーチコーミング&地引き網体験」を開催されています。このイベントでは、参加者に海岸清掃を行っていただき、どこからどんな漂着物が流れてきたかを考えていただくほか、拾った貝殻や流木を使った作品づくりなどを通じて環境美化意識の啓発を図っていただいています。

ご提案のありました楽しみながら参加できる清掃活動イベントの開催につきましては、より多くの市民の皆様が清掃活動に参加いただき、ごみのないきれいなまちづくりを進めるために大変有効であると考えていますので、市としましては、今後とも市民・事業者・市民団体の皆様と協働して取り組んでいきたいと考えています。

議員の皆様もぜひ、清掃活動イベントに積極的にご参加いただき、ごみのない美しい舞鶴を守っていくためにご協力をお願いします。

---

次に、宮越議員から提案がありました「地域活動により元気な高齢者を増やす取組」についてですが、運動による健康づくりは、メタボを解消する事で、糖尿病や高血圧などの生活習慣病を予防するだけでなく、筋力低下などの運動機能の低下も予防できると言われています。

そのため、本市では、高齢者の方が気軽に運動できる「サロンdeストレッチ」や「生き生きトレーニング教室」などを実施しており、高齢者の運動習慣の定着化や、人と人とのつながりを深める地域づくりにも努めているところです。

提案のありました「舞鶴オリジナル健康体操」の実施につきましては、高齢者の健康づくりのほか、地域での世代間交流の機会として地域の活性化につながる有効な取組の一つであると考えています。

こうした中、全国各地においても「ご当地体操」が実施されておりますが、子どもから大人まで全ての世代で親しまれ、学校、職場、地域など多くの場所で実践される体操とするためには、考案から普及に至る全ての過程において、市民と一緒に取り組む必要があると考えております

ので、今後、舞鶴オリジナル健康体操の考案につきましては、ネーミングやキャラクターなど普及啓発も含めて、中学生をはじめ多くの市民から意見をお聞きしながら、検討してまいりたいと考えています。

いずれにいたしましても、健康寿命の延伸につきましては、子どもから大人まで全ての世代で取り組むべき課題でありますので、中学生の皆さんにもご自身の健康づくりや、地域活動に積極的に取り組んでいただくなど、「健康なまち・まいづる」の実現のためにご参画いただきたいと考えています。



中学生議員の皆さん、この議場を中学生らしきで一杯にしてくれてありがとう。皆さんの立派な態度と堂々とした発表が、中学生らしいすがすがしさをこの議場に運んでくれました。心からお礼を言いたいと思います。皆さんの発表の内容は素晴らしいものばかりで、大人の私たちが「なるほどなあ」とか「その通り」と思えるものがたくさんありました。

舞鶴のことを真剣に考えてくれたことに感謝しますとともに、冒頭に市長がおっしゃった私たち大人からバトンを渡す人として、皆さんがふさわしいと強く感じました。

その皆さんの提案一つ一つに、舞鶴市の取組にかかわる提案については多々見市長から丁寧にご答弁いただきましたし、教育にかかわる提案につきましては私から答弁させていただきました。

さて、舞鶴市では皆さん中学生や小学生が、「ふるさと舞鶴を愛し、夢に向かって将来を切り拓く子ども」に育ててほしいと願っています。そのために、皆さんはいろいろな力を身に付けていかなければいけません。でも、今日のまちづくり議会を通して皆さんには様々な力が身に付いたことに気が付きましたか。

まず第1に、向上心が身に付きました。自分たちのふるさと舞鶴を良くしたい、と思える力。これはふるさとを愛するという素晴らしい思いから生まれている力であり、舞鶴を少しでも良くしたいという向上心が皆さんの成長に役立ち、向上心こそが皆さんの将来に欠かせない力なのです。

次に考える力が身に付きました。舞鶴を良くするためにどうすればいいのか、これは正解はないかもしれない問いなのです。正解はなくとも考える、その力こそが最も大切な力の一つなのです。

そして今日この場で発表し表現する力。自分の考えや意見をどのように伝えていくか、ということは社会で生き抜くためにも欠かすことができない力なのです。こういった力を皆さんはこの中学生議会を通して身に付けました。自信を持っていると思います。

実はもう一つ、皆さんは力を身に付けました。今日の提案発表に至るまで、準備も含めて市役所の方やいろんな方々にお世話になり、感謝の気持ちを持ちました。また、このような機会を作っていただいた多々見舞鶴市長さんへも感謝の気持ちを持ちました。それらも皆さんの力です。

※ 裏面に続く

まもなく2学期がスタートします。ぜひ、今日の経験を元に、充実の2学期にしてください。皆さんのますますの成長を心より楽しみにしています。

後になりましたが、この中学生まちづくり議会を開催するにあたり、上野修身市議会議長をはじめ、保護者の皆様、関係者の皆様、各中学校の校長先生をはじめご担当の先生方のご理解ご協力に感謝申し上げます、閉会のあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。

# 表彰式

## □ 表彰内容

### ◆ ふるさと舞鶴優秀提案賞

7中学校 21名の生徒の提案の中で、特に素晴らしい提案をされた生徒5名に対して、市長から「ふるさと舞鶴優秀提案賞」が授与されました。

### ◆ ふるさと舞鶴奨励賞

上記の受賞者を除く生徒全員に、提案書の作成に対する努力を讃えるとともに、今後の頑張りを期待し、市長から「ふるさと舞鶴奨励賞」が授与されました。

## □ 選考理由

どの生徒の提案も、本市の施策や取組の学習を通して、どうすればふるさと舞鶴がより良いまちになるのか、真剣に考えまとめられたことが伝わる、大変素晴らしい提案でした。

その中で、ふるさと舞鶴優秀提案賞を受賞された提案は、もっと暮らしやすい元気な舞鶴にするために、中学生である自分たちが地域の中でできることや、自らの経験を踏まえて、舞鶴をこういうまちにしてほしいという思いが具体的に表現されていた点を評価し選考しました。

## □ ふるさと舞鶴優秀提案賞 受賞者（提案順）

中学校名	提案者氏名	提案テーマ	提案要旨
加佐	大槻 隆之介	地元就職の誘導	地元企業でのインターンシップ実施について
加佐	佐藤 遥	防災力の向上	地域が主体となった防災の取組について
青葉	麻尾 遙弥	防災対策	災害時の避難情報の伝達について
和田	川井 玄仁	観光振興	舞鶴ならではの体験型ツアーの開催について
若浦	大橋 史佳	交流人口の増大	舞鶴に繰り返し訪れてもらうための観光の取組について



# 中学生議員の感想文

題 名

「まいづる中学生まちづくり議会に参加して」

私は、まちづくり議会を終えて、多くの体験や他校の中学生との交流が持てたと思います。例えば、一般の人はあまり入らないような議場に入ることができ、しかも、その議場で発表させていただけたことが本当に貴重な体験だと思います。

さらに、その発表の準備の途中で、市役所の方々に自分の意見を見ていただいたり、他の学校の人と仲良くなれたりしたので良かったです。違う学校の友達とも会うことができたのでうれしかったです。意見を考えたり、市役所の方にアドバイスをもらったりする中で、「社会人になれば、こんな提案書を書くのかな。勉強になるな。」と思いました。

市長さんや議長さんがいる中で、本当の議会ができてとても楽しかったです。あと、そんなすごい人たちと写真を撮るのも当たり前だけど初めてだったので、うれしかったです。何より、普段は中学生が入ることもないような議場で、議会の体験ができた、というのがとても良い経験でした。ありがとうございました。

今回のまちづくり議会をして、僕は良い経験ができたと思いました。なぜかという、大勢の前で話すことをしたからです。

僕は、学校で全校生徒の前で話すと、緊張してしまって言うことが分からなくなったりしてしまいます。しかし、今回は同じ学校の人がいるからかもしれないけど、あまり緊張せずに話せました。このことを生かして学校でも大勢の前で話すことをしていきたいです。

他の学校の人たちの提案の中で、加佐中学校の佐藤さんの提案がいいと思いました。たぶん、僕と同じようなことを言っているからかもしれないけど、意見、提案を分けて言っているし、詳しいことも言っているのでいいと思いました。他の人もいい提案だったのでよかったです。

今回は、特別な経験をさせてもらったので、今回で分かったことを、次に生かしていきたいです。

まちづくり議会というような大きな会議に参加することで、とても良い体験になりました。

まちづくり議会当日までの事前学習会などで、どんなことをどんなふう提案したら良いのか全く分からなくて不安だったけど、ちょっとしたヒントをもらっただけで、何を提案したら良いか少しずつ分かってよかったです。

議員の方たちがこのような舞鶴を良くするために提案をするのは、とてもすごいことだと思います。

僕たちは、そんな大変珍しく貴重な体験をさせてもらうことができ、うれしかったです。僕たちが考えて提案した内容が、少しでもこの舞鶴を良くするための提案になればうれしいです。

提案するのは大変だけど、議員の方たちも舞鶴を良くするために、これからも必死に考えて頑張ってもらいたいと思います。

僕は、中学生議会を終えて、期間中は忙しかったけど、良い経験になったなと思いました。準備の期間中からも発表のことは気にしていたけど、本番はトップバッターだったので、思った以上に緊張して、少し読み間違えてしまいました。だけど、全体的に上手く発表できたので良かったです。

今回の議会は、新しい舞鶴の魅力を発見したり、あまり知られていない舞鶴の特徴が知れたりして、地元の舞鶴をよく知ることができた機会となりました。今の舞鶴は住みやすいけれど、人口が減ってきているのは舞鶴の魅力があまり知られていないからだと思います。

今回の議会の提案を生かして、市役所の方たちに頑張ってもらいたいと思います。今後、機会があったら、積極的に取り組んでいきたいです。

今回、中学生まちづくり議会に参加させていただいて、今まで考えたことがなかったようなことを考える貴重な体験になりました。

事前学習会では資料説明を受けました。各課では、市民の人たちに分かりやすいように資料が作ってありました。説明の後、議会に向けて提案テーマを考えて提案書を作成しました。

自分が何を伝えたいのか、問題点を解決するためにどうしていけばいいのか、人に伝えるための文章作成はとても難しかったです。舞鶴を良くするために、課ごとにいろいろな取り決めがあって、議会が開かれて、いろいろな人の意見を出し合って話し合って決まっていくことが、今回まちづくり議会に参加して分かりました。

僕は、これからまず、地域行事に参加することから、舞鶴の市民としてのまちづくりに参加していきたいです。

今回お世話になり、ありがとうございました。

まちづくり議会に参加してみて、まだまだ舞鶴は発展できるなと感じました。他の人の提案を聞いて、自分が思いつかないようなことを考えていてびっくりしました。自分はPRをする、という提案だったけど、他の人はスタンプラリーをする、空き場所を有効活用するなどの小さい子から大人まで楽しめるような内容でした。自分は、対象とする年齢を中高生に限定していました。たくさんの人を舞鶴へ呼ぶにはもっと凝った考えが必要なんだなと思いました。

今回のまちづくり議会はこれで終了だけど、舞鶴の中学生として誇りをもって大人になりたいです。

大変貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

僕は、この中学生議会に参加して思った事は、舞鶴の市議会議員の人たちは、こんなところで、舞鶴がより良いまちになるためにはどうすればいいかを考え、案を出し、そして実際に市で活動してみるということをしてくださっていたことに気付き、感謝しなければならなかったと思いました。

実際の議場がどんなところで、どこにあるのかも知らなかったので、そういうところも勉強になりました。

そして、いろいろな人がいろいろな考えを持っていることが分かったので、「舞中8」などの舞鶴の中学校全体で、何かをするときにもこの経験を生かし、他の人の意見を参考にし、さらに自分からも意見を出し、他の学校の力になれば良いと思いました。

僕は、今回のまいづる中学生まちづくり議会で学んだことは、大きく分けて二つあります。

まず一つは、舞鶴についてです。僕は、自分の住んでいる所なので、なんとなくわかっているつもりでした。ですが、事前学習で交通の話や職業の話、学習の話などたくさんの舞鶴についてのことを聞いて、知っていることの方が少なくてびっくりしました。市を良くするためにたくさん努力をされているなと思いました。

二つ目は、たくさんの力が付けられたということです。教育長さんが言われた力が付けられたのは、とても良かったです。特に僕は、人前でしゃべるのがあまり得意ではありません。今回たくさん話す機会があったので、人前でしゃべる力が少しは付いたんじゃないかなと思いました。このようなことが今回学べました。

とても良い機会になりました。ありがとうございました。

僕は、今回の議会に出席させていただいたことで、人の前で発言することに自信を持つことができました。また、自分が発言した内容について、市長が真剣に答弁してくださり、こうして、市がより良くなっていくのだと感じました。

議場の雰囲気は、想像していたよりも、緊張感に包まれていて、自分の出番が来るまでの時間は不安だったけど、その時間にも慣れることができましたし、人の話を聞く力も今まで以上に付きました。

この議会に参加したことで、僕は舞鶴のことをもっと知ることができました。今まで、どのような取組をしていたのか、どのような取組をしていなかったのか、また、現状と成果などを、議会に参加した人しか知れないことを知ることができ、これからの生活に良い影響を与えてくれました。

参加して良かったです。もっともっと舞鶴を良くしてってください。ありがとうございました。

私は、今回この「まいづる中学生まちづくり議会」で初めて議場に入りました。そして、そこで話して、とても緊張しました。

私はこれまで、まず舞鶴市がどのようなことをやっているのか知りませんでした。しかし、今回、「提案テーマ」を決めるときに使った資料を見て、「全て」やっているということが分かりました。私が一番身近に感じたのは、学校給食です。私は今まで、「ここが危ない」などは思うだけで、どこに言ったらいいいのか知りませんでした。私は、このようなことを知らない人はたくさんいると思います。だから、まず舞鶴市がどのようなことをやっているのか知らない人に伝えていけたらいいと感じました。そして、今回真剣に舞鶴に向き合ってみて、田舎とは言われているけれど、良い所がたくさんあるということを学びました。そして、舞鶴のことをいつも真剣に考える人もいるということもです。

私はまだ中学生で、できることも少ないですが、舞鶴のためにできることがあれば、積極的にしていきたいと考えました。

中学生議会に参加して、僕は自分たちの提案を子どもの考えとして扱うのではなく、1つの意見として見てもらっていると感じたことがうれしかったです。多々見市長の分かりやすい答弁を聞いていると、またいつか今度は、もっと違う提案をしてみたいなという気分になりました。また、他の学校の人々の提案を聞くことで、その分野の提案が思い浮かんできて、「なるほど」と思う意見も多くあって、聞いている時も頭を使っていました。

僕は、まちに目を向けたときに見えてくる問題はもっとたくさんあると思うので、誰かにまちについて提案するというのはとても良いことだと思います。だから、僕もこの議会に出ることができて、とても運が良かったです。こんな経験はめったにできることではないので、この経験を生かせる機会が来れば、うれしいです。

僕は、このまちづくり議会に参加して、自分では考えられなかったような考えをしている人がいて、そういうことをすれば舞鶴がより良くなるのかと学びました。スタンプラリーをして、何度も楽しめるようにするという意見もあり、確かに大人だけでなく子どもも、という点ではとても良いと思いました。また、皆さんの意見を聞いて、自分もとても共感ができるという意見も多かったです。

提案する内容はそれぞれ違いましたが、どれも良い意見ばかりで、舞鶴の問題をどうすればよいかや、新しくこうしたらよいのではないのか、というのがあり、それはすごいと思うことが多かったです。自分の夢があるので、そのためにどうしたらよいかと考えることができました。この機会に舞鶴について改めて考えられて良かったです。

僕は、まちづくり議会で、自分たちの生活は自分たちの知らない所で支えられていることが分かりました。特に印象に残ったのは、僕が子育てのことを提案したときに、市長さんが、「民生児童委員が子育て中のお母さんをサポートする」と答弁してくれたことです。僕たちのとても身近なことに、市が関わっており、それらを何も知らないことに気付かされました。他の人の提案に対する答弁を聞いても、同じことを感じました。

今日のことを受け、これから二つのことを実行したいです。一つ目はもっと市政のことを知ることです。市政を知ることによって、生活の困ったことなどが解消できる方法が見つかると思ったからです。

二つ目は、ぜひ議会を傍聴したいと思います。これまで議会を見ることができるということすら知りませんでした。市政が実際はどのように行われているのか、一度見に行きたいです。また、政治に関心がない人も一度は経験してほしいと思いました。

まちづくり議会では、ふるさと舞鶴についてしっかり考えられたし、他の人の意見もいっぱい聞いて良かったです。市役所に入って、頭の良さそうな中学生ばかりで緊張したけど、加佐中学校の人と話せたので良かったです。

提案書を考えるのにすごく時間がかかって、難しかったけど、いろんな考えができたし、意外とすぐ書けたので良かったです。

しかも、普通では入ることのできない議席にまで座らせてもらえて、すごく貴重な体験になりました。

でも、それぞれの意見に優劣をつけるのはどうかなと思いました。僕は、優秀賞が取れなかったので、負け犬の遠吠えになりますが、評価を付けてしまうと、この意見が良くてこの意見が悪いという区別がついてしまうので、あまり良くないと思いました。

今回の事前学習会で、人に自分の考えを提案するための文章を考えたときに、簡潔で内容が分かりやすく、そして魅力的であることが必要だと学びました。また、目上の人に対して提案するので、言葉遣いも気を付ける必要がありました。そして、議会ではたくさんの人の前で話したり意見を聞いたりすることをさせていただいて、聞きやすい間の取り方やスピード、声の大きさや高さなどを変えるだけで説得力に違いがあることを学びました。

ああいう場で話す機会はほとんどないし、ましてや市長さんに答弁をしていただき、貴重な体験をさせてもらいました。

僕たちの意見が舞鶴を動かすかもしれないというのは実感がわきませんが、人を動かすには時間をかけてどうすれば伝わるのかを考えなければならないことを、身をもって知ることができ、改めてすごいことだと思いました。

事前学習会と中学生議会に参加して学んだことは、「舞鶴の課題点とどう向き合っていくのか」ということでした。その中で、交流人口の増大をテーマにして、どう舞鶴を活性化させるかを考えました。

どんなことをしたいかという思いはありましたが、アイデアをしっかりと形にする過程が初めての体験でしたし、貴重な体験となりました。

議会では、同じ舞鶴の中学生の、違う視点からの意見が出るのが面白かったです。発表した後の市長さんの話を聞いて、「伝わった。」と思い、とてもうれしかったです。議会のイメージでは、市長さんが話を聞き、その場で答えを考えると置いていたけれど、事前に答えを考えているということがびっくりしました。

この体験を通して、少しでも舞鶴のためにいろんなことを考えることができ、とても良かったです。

僕が中学生まちづくり議会に参加すると決まったとき、正直とまどいがありました。理由は、舞鶴市のことをあまり知らないで、何が舞鶴市の課題なのか分かっていなかったからです。

でも、1回目の事前学習会で舞鶴市の現状を教えてもらい、自分の提案したいところを小さく絞ることができました。

2回目の事前学習会では、自分が書いてきた文章を、市役所の方々のアドバイスのもと、しっかり伝わりやすく、説得力のある文章にすることができました。

そして、本番。僕自身はとても緊張していたけれど、堂々と発表することができました。また、この機会を通して、舞鶴のことを知り、深く考えるきっかけになりました。だから、これから舞鶴市の活動に積極的に参加し、貢献していきたいと思いました。

中学生議会に参加して、私たちのまち「舞鶴」をより良くするために、たくさんの方が関わって議会を行っておられるということが分かりました。また、夢チャレンジテストの実施や学校給食の実施など、市民のために様々な取組をしておられることも知りました。

議会に参加して感じたことは、何かを提案することは予想していたよりもはるかに難しいということです。提案テーマが「教育」ということもあり、具体的な取組を考えることができなかったのが残念です。次、もう一度中学生議会に参加できるとしたら、「観光」について具体的な取組を考えたいです。

私がいいなと思った提案は、大橋さんのスタンプラリーです。具体的で面白く、「舞鶴プロ観光大使」などすごい発想だなと思いました。

今回、普通なら経験できない中学生議会と言う貴重な体験をさせていただき、光荣です。ありがとうございました。

僕は、地元就職の誘導について提案をして、市長がしっかりと答弁を考えてくださり、うれしかったです。

僕は、「まいづる中学生まちづくり議会」で他の人の発表を聞いていて、若浦中学校の大橋史佳さんの発表がすごいと思いました。

僕は、もともと、インターンシップという活動があり、少し改善点をいくつか挙げただけだったけれど、大橋さんは、自分からスタンプラリーという方法を思いついて、それについて詳しく書いてあったから、すごいと思いました。

このまちづくり議会に参加して、学んだことは、自分の考えを自分だけのものにせず発信することの大切さです。このまちづくり議会に参加して良かったし、この取組を続けていくべきだと思います。

中学生議会に参加してみて、提案するまでがすごく大変でした。テーマを選ぶのにも、たくさんの課題があり、どれを提案しようかととても迷いました。人口減少による少子高齢化、若い人が舞鶴にいてくれるにはどうしたらいいか、舞鶴を知ってもらうにはどうしたらいいかなど、たくさんあり、とても迷いました。この課題を一つ一つ減らしていくことが大切なんだと学びました。

私は、防災のことをテーマにしたけれど、本当にこれで被害が減ればいいなと思います。

また、他校の提案を聞いてなるほどなと思いました。保育士の方が講師として研修会をするのはいいと思いました。学校を活用したり、ツアーを開いたりするなど、おもしろい提案だと思いました。

たくさんの人の前で緊張したけれど、とても良い経験となりました。

私は舞鶴市民ですが、事前学習会に参加して、舞鶴について知らないことが多くあることがわかりました。今回の中学生議会で舞鶴の現状を知ることができただけでなく、舞鶴について考えるよい機会になったと思います。

また、同じ中学2年生の個性あふれるアイデアを聞くことができ、とても楽しかったです。舞鶴に繰り返し訪れてもらうためのスタンプラリーの提案は、小さい子ども連れの方でも楽しむことができるし、災害が起こった時のことを考えて、地域の人との関わりを深めておく提案は、「なるほどな」と思いました。

普段の学校生活で舞鶴について考えることがあまりないので、学校の授業にも取り入れていくとよいと思いました。地元舞鶴を愛する子どもの育成や視野を広く持つことにつながると思っています。中学生議会に限られた人しか体験できないことが、もったいないと思いました。

# 取組の記録

事前学習会・本会議

## まいづる中学生まちづくり議会の日程

事前学習会（第1回）	
日 時	平成30年7月30日（月）10：00～15：00
場 所	舞鶴市役所 中会議室（別館5階）、 大会議室・612 会議室（別館6階）
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市長あいさつ、議場見学、任命書配布</li> <li>● 担当課から施策概要の説明、提案テーマの学習</li> <li>● 生徒ごとに提案テーマと提案内容の相談・決定</li> </ul>
宿 題	● 提案書の作成（原稿用紙1枚分）

事前学習会（第2回）	
日 時	平成30年8月6日（月）又は7日（火）
場 所	各中学校
内 容	● 宿題で作成した提案書の修正、完成、提出

本会議（本番）																	
日 時	平成30年8月25日（土）9：00～12：00																
場 所	舞鶴市議会議場（本館4階）																
内 容	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">8：45</td> <td>集合</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">9：00</td> <td>リハーサル</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">9：30</td> <td>控え室で休憩・練習</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">10：00</td> <td>開会、市長・議長あいさつ</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">10：10</td> <td>中学生議員が提案、市長・教育長が答弁</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">11：30</td> <td>閉会あいさつ、閉会</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">11：35</td> <td>表彰、記念写真</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">12：00</td> <td>解散</td> </tr> </tbody> </table>	8：45	集合	9：00	リハーサル	9：30	控え室で休憩・練習	10：00	開会、市長・議長あいさつ	10：10	中学生議員が提案、市長・教育長が答弁	11：30	閉会あいさつ、閉会	11：35	表彰、記念写真	12：00	解散
8：45	集合																
9：00	リハーサル																
9：30	控え室で休憩・練習																
10：00	開会、市長・議長あいさつ																
10：10	中学生議員が提案、市長・教育長が答弁																
11：30	閉会あいさつ、閉会																
11：35	表彰、記念写真																
12：00	解散																

# 第1回事前学習会の様子

舞鶴市役所 大会議室・中会議室

舞鶴市議会議場

平成30年7月30日(月)



# まいづる中学生 まちづくり議会の様子

舞鶴市議会議場

平成 30 年 8 月 25 日 (土)





